生活に何かと役立つ連載コラム

つぶやきがんちゃんの

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 52

今月のテーマ　夫婦で作る協定書？ Part.2

前号では夫婦協定の必要性をぶち上げたが、一体それは“何をどう協定するのか”が問題だ。協定そのものが目的ではないことは言うまでもないが、その内容たるやさっぱり分からないと言う方も多いに違いない。しかし、その内容に触れる前に、皆さんそれぞれの生活の中で、「こんな筈じゃあなかったのに」、「最初に決めておけば良かった」と思うことはないだろうか…？そう思っていることを、いまさらながら協定にすればいいのである。

世の女性にダメだしを食らうのを恐れずに言うと、私の好きな歌の一つに「さだまさし」の「関白宣言」なるものがある。歌いだしは“お前を嫁にもらう前に言っておきたいことがある…”で、♪俺より先に寝てはいけない、俺より後に起きてはいけない、飯は美味く作れ、いつもきれいでいろ♬と続く。古すぎて若い方々は知らないかな…？これらの歌詞を見ると協定とは程遠く、むしろ一方通行的な想いだが、自分の想いを相手に伝えると言う点においては大事なことだと思うのである。“関白宣言”とはいっても、暖かな愛情を感じているのは私だけであろうか？断っておくが、何も、この歌詞の内容に自分の願望を重ね合わせているわけではない。でも、全く無いかと言えば、無いことも…！要するに、お互いの想いを確認しあうことが大事なのだ。想いを伝えないまま悶々と過ごし、掛け違えた最後のボタンで気付いたときには、修正もだんだんと難しくなってしまうから…。

さて、協定の言葉の意味を国語辞書で調べると「紛争・競争などを避けるため、協議して取り決めをすること」とある。堅ーいイメージではあるが、夫婦における協定は、将来の夢や希望、家事や育児の役割分担、家計のあり方などの、生活の上で必然的に発生する事柄に対し、お互いの考えを確かめ、まとめることにあるのだ。堅く考えずに将来を楽しく語り合おうではないか。一旦作った協定も、合わなくなったものは変えればいいし。発展的に育てていこう。

「さだまさし」の“関白宣言”もやがて“関白失脚”という内容に変化していく…。^_^;

●家計管理について

①個人から家族単位へ

独身時代の給料の使い道は、ほとんどの方が自由に決めていたかもしれない。しかし結婚後には、家計を個人から家族単位に切り替えていかなければならない。自由な独身時代から夫婦での話し合いの機会を持ち、支出の予算や貯蓄計画を立てていかなければならない。特に共働きの世帯では、家計を統合した上での計画でなければならない。

共働きの世帯であっても、家計のやりくりを夫の給料でまかない、妻の給料は無いものとして、全てを貯蓄に充てるというケースも見られるが、統合されていないようではあっても、しっかりと管理区分されているわけだから、これはこれで堅実なやり方と言えるだろう。

要は、将来計画に基づく取り決めが、2人の話し合いにより方向付け管理されていることが重要なのだ。この取り決めが無いと、ズルズルとお互いの給料も知らないまま、割り勘のような家計になってしまいかねない。

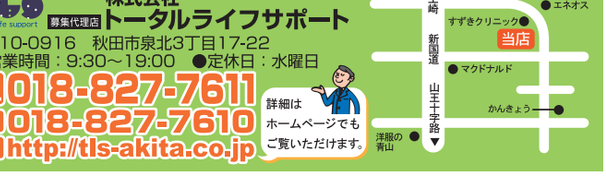
齋藤廣勝（さいとう ひろかつ）
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所　年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

こちら

保険と暮らしの相談センター

～ 今月の無料相談会・重点テーマ ～
生命保険の賢い加入方法!!
●加入している保険が本当に良いのか分からない方！
●生命保険の更新時期が近い方！
●万一の場合の生活費が心配な方！
●お子様の教育費が心配な方！
相談料は無料!!
納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。
株式会社 トータルライフサポート
募集代理店
〒010-0916　秋田市泉北3丁目17-22
●営業時間：9:30～19:00　●定休日：水曜日
TEL 018-827-7611
Fax 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp
詳細はホームページでもご覧いただけます。



生活知恵袋.indd 84　13/10/08 15:04

②価値観の共有

経済感覚のずれは、将来的に対立が生じたり、家計の維持に大きな問題になったりもする。最初が肝心！そして家計の管理や、やりくりは誰が担当するのかも重要だ。

古い感覚だと、夫が稼いで給料袋ごと妻に渡し後はお任せというパターンが多かったが、最近は夫が管理していることも少なくない。どちらかが担当するとしても、任せっきりにして良いわけではない。お金の使い方や家計のやりくりへの価値観を共有できなければ、後々の対立が生じかねない。『俺は稼いできているから、やりくりが上手くいかないのはお前が悪い』などとは、言語道断である。

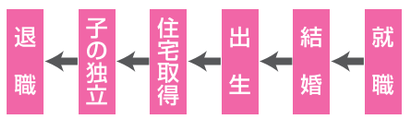
●家事全般について

交際中の2人は晴れて結婚、と同時に同じ屋根の下で2人のあまーい生活と相成るわけだが…。結婚すると同時に現実的な問題が数多く存在する。交際中のレストランでの食事は、料理を作ることも無ければ皿洗いも無いが、家庭生活においては食事の支度、掃除、洗濯、ゴミだし、などなどが日常的に継続する。新婚家庭ではそのどれもが新鮮で楽しくもあるのだが、楽しさをいつまでも続けるためには、これらの問題をも取り決めておいた方が良い。そんな細かいことと思われるかもしれないが、細かいことだからこそ大事なのだ。〝あばたもえくぼ〟がいつまでも続くためにも、こんな取り決めをも楽しんでいただきたいものだ。

〝坊主憎けりゃ袈裟まで憎い〟なんてことにならないためにも…。

●保険加入について

結婚し所帯を構えるということは、それまでの個人の生活防衛に加え、家族を守るという視点が必要となり、お互いが責任を自覚する時期でもある。しかしながら、結婚という大事なタイミングで生命保険の見直しがされないと、充分な保障が確保されないまま、ズルズルと時が経過してしまうことになってしまう。



生命保険見直しの主なタイミング

人の生死や健康に関わり、家族の生活保障を確保せねばならないだけに、その重要性・優先度は高いのであるが、実際のところ見直しされていないケースが少なくない。結婚のタイミングで話し合いの機会を逸してしまうと、相手に対して〝生命保険に加入して〟とはなかなか切り出しにくくなってしまう。夫婦間で、身構える必要はないし、遠慮するべきものではないのだが…。

責任を自覚し、愛するパートナーのためにも、催促される前に自らが切り出して欲しいものだ。既に話す機会を逸してしまった皆さん！本編の文章を広げて、〝つぶやきがんちゃん〟がこう言っているよ、と利用してみたらどうでしょうか。もしくは、遊びに来ていただければ、喜んでキューピットの役を引き受けるのではあるが…。〝新婚さんいらっしゃいセミナー〟なんてものを開催出来たら面白いかもしれないなあ。うんうん！

●最低限の確認事項

今回の号では、最初が肝心！結婚時で、〝少なくともこれだけは〟という、最低限の確認と協定すべきことをまとめてみた。最低限だ！これらが、決まっていないと所々で問題が噴出しかねない。

新婚さんだけでなく、中婚さんも、旧婚さんも、これらの問題に対する価値観の共有が出来ていないご夫婦は、今からでも遅くない。しっかりと向き合って話し合い、同じ方向を目指してほしいものだ。

きっと、ＬＯＶＥ　ＬＯＶＥがさらに深まること請け合いだ。

来月号は、将来を考える夫婦協定を考えてみよう。乞うご期待！

生活知恵袋.indd 85　13/10/08 15:04